

**浜岡原子力発電所**  
**原子炉施設保安規定変更認可申請書**  
**補足説明資料**

(保安規定審査基準の要求事項に対する  
保安規定変更内容の説明)

**改訂2 令和2年8月13日**

**改訂1 令和2年7月28日**

**令和2年7月10日**

**中部電力株式会社**

## <保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更内容の説明>

本資料の構成は、次のとおり。

### 1. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理

今回の浜岡原子力発電所原子炉施設保安規定（以下、「保安規定」という。）の変更認可申請の内容は、共用施設である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務分掌の見直しに伴う変更であり、廃棄物減容処理装置は廃止措置対象施設ではないため、当該施設の施設管理については保安規定第1編に規定している。

このため、本資料では、実用炉規則第92条第1項及び発電用原子炉施設保安規定の審査基準（H25.6.19 制定、R元.12.25 最終改正/R2.4.1 施行）（以下、「保安規定審査基準」という。）で要求される事項について、既認可の保安規定第1編において、どの条項で対応しているかを整理している。

今回の保安規定の変更認可申請において、保安規定審査基準に適合する変更内容であることを説明するため、保安規定審査基準が要求する事項に対して直接的に該当する内容を変更するものについては、変更有無欄に「有」を記載し、「主要な変更対象の項目」として黄色ハッチングを行う。

### 2. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定の記載内容

前項の「保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理」において、「主要な変更対象の項目」として抽出された項目について、保安規定審査基準の要求事項と保安規定第1編の記載内容の対比を行い、保安規定審査基準の要求事項に適合する変更内容であること、又は保安規定審査基準の要求事項に抵触しない変更内容であることを「保安規定の記載の考え方」欄でご説明する。

また、前項の「保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理」において、「主要な変更対象の項目」として抽出されなかった項目であっても、廃棄物管理課長に係る条文の中で、業務分掌の見直しの観点から特に説明が必要と判断した項目については、保安規定審査基準の要求事項と保安規定第1編の記載内容の対比を行い、今回の変更認可申請に含めていない理由を「保安規定の記載の考え方」欄でご説明する。

保安規定第1編の第6章（放射性廃棄物管理）及び第7章（放射線管理）における廃棄物管理課長に係る条文については、当該条文に規定する保安活動（業務）を保守部の設備保全課長に業務移管しないことは、保安規定第1編第5条（保安に関する職務）の規定から自明のため、保安規定審査基準の要求事項と保安規定の記載内容の対比は省略する。

なお、前項で述べたとおり、廃棄物減容処理装置は共用施設であり、3～5号炉の運転及び1，2号炉の廃止措置の両方の目的のために使用するが、廃止措置対象施設ではないことから、共用施設である廃棄物減容処理装置の施設管理については、運転段階の発電用原子炉施設として規定している。

一方、共用施設である廃棄物減容処理装置の運転には、1，2号炉の保安活動として、1，2号炉の廃止措置（貯蔵，保管，固型化，焼却，減容，熔融処理等）も含まれるため、運転段階の発電用原子炉施設である3～5号のための運転に加え、廃止措置段階の発電用原子炉施設である1，2号のための運転としても規定している。

従って、今回の保安規定の変更は、運転段階の発電用原子炉施設である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する変更であり、廃止措置段階の発電用原子炉施設の施設管理に関する変更ではなく、また、廃棄物減容処理装置の運転に関する変更でもないことから、廃止措置段階の発電用原子炉施設保安規定の審査基準への適合確認は対象外である。

# 1. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理

下表において、変更対象となる保安規定条文に該当する保安規定審査基準を示す。

: 変更対象の項目

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第1号 <b>【関係法令及び保安規定の遵守のための体制】</b>	1. 関係法令及び保安規定の遵守のための体制（経営責任者の関与を含む。）に関することについては、保安規定に基づき、要領書、手順書その他保安に関する文書について、重要度等に応じて定めるとともに、これを遵守することが定められていること。また、これらの文書の位置付けが明確にされていること。特に、経営責任者の積極的な関与が明記されていること。	第2条の2	関係法令及び保安規定の遵守	—
	2. 保安のための関係法令及び保安規定の遵守を確実にするため、コンプライアンスに係る体制が確実に構築されていることが明確となっていること。	第2条の2	関係法令及び保安規定の遵守	—
実用炉規則第92条第1項第2号 <b>【品質マネジメントシステム】</b>	1. 品質マネジメントシステム（以下「QMS」という。）については、原子炉等規制法第43条の3の5第1項又は第43条の3の8第1項の許可（以下単に「許可」という。）を受けたところによるものであり、かつ、原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則（令和2年原子力規制委員会規則第2号）及び原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則の解釈（原規規発第1912257号-2（令和元年12月25日原子力規制委員会決定））を踏まえて定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	2. 具体的には、保安活動の計画、実施、評価及び改善に係る組織及び仕組みについて、安全文化の育成及び維持の体制や手順書等の位置付けを含めて、発電用原子炉施設の保安活動に関する管理の程度が把握できるように定められていること。また、その内容は、原子力安全に対する重要度に応じて、その適用の程度を合理的かつ組織の規模に応じたものとしているとともに、定められた内容が、合理的に実現可能なものであること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	3. その際、要求事項を個別業務に展開する具体的な体制及び方法について明確にされていること。この具体的な方法について保安規定の下位文書も含めた文書体系の中で定める場合には、当該文書体系について明確にされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	4. 手順書等の保安規定上の位置付けに関することについては、要領書、手順書その他保安に関する文書について、これらを遵守するために、重要度等に応じて、保安規定及びその2次文書、3次文書等といったQMSに係る文書の階層的な体系における位置付けが明確にされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
実用炉規則第92条第1項第3号 <b>【発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者の職務及び組織】</b>	1. 本店等における発電用原子炉施設に係る保安のために講ずべき措置に必要な組織及び各職位の職務内容が定められていること。	第4条	保安に関する組織	—
	2. 工場又は事業所における発電用原子炉施設に係る保安のために講ずべき措置に必要な組織及び各職位の職務内容が定められていること。	第4条 第5条	保安に関する組織 保安に関する職務	— 有
実用炉規則第92条第1項第4号、5号、6号 <b>【発電用原子炉主任技術者の職務の範囲等】</b>	1. 発電用原子炉の運転に関し、保安の監督を行う発電用原子炉主任技術者の選任について定められていること。	第8条	発電用原子炉主任技術者の選任	—
	2. 発電用原子炉主任技術者が保安の監督の責務を十分に果たすことができるようにするため、原子炉等規制法第43条の3の26第2項において準用する第42条第1項に規定する要件を満たすことを含め、職務範囲及びその内容（発電用原子炉の運転に従事する者は、発電用原子炉主任技術者が保安のために行う指示に従うことを含む。）について適切に定められていること。また、発電用原子炉主任技術者が保安の監督を適切に行う上で、必要な権限及び組織上の位置付けがなされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
		第6条	原子力発電保安審議会	—
		第7条	原子力発電所保安運営審議会	—
		第8条	発電用原子炉主任技術者の選任	—
		第9条	発電用原子炉主任技術者の職務等	—
	3. 特に、発電用原子炉主任技術者が保安の監督に支障を来すことがないよう、上位者等との関係において独立性が確保されていること。なお、必ずしも工場又は事業所の保安組織から発電用原子炉主任技術者が独立していることが求められるものではない。	第8条	発電用原子炉主任技術者の選任	—
	4. 電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が保安の監督の責務を十分に果たすことができるようにするため、電気事業法第43条第4項に規定する要件を満たすことを含め、職務範囲及びその内容について適切に定められていること。また、電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が保安の監督を適切に行う上で、必要な権限及び組織上の位置付けがなされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
		第7条	原子力発電所保安運営審議会	—
第8条の2		電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者の選任	—	
5. 発電用原子炉主任技術者、電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が相互の職務について情報を共有し、意思疎通を図ることが定められていること。	第7条 第9条の3	原子力発電所保安運営審議会 主任技術者の情報共有	— —	
実用炉規則第92条第1項第7号 <b>【保安教育】</b>	1. 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者（役務を供給する事業者に属する者を含む。以下「従業員」という。）について、保安教育実施方針が定められていること。	第117条 第118条	所員への保安教育 請負会社従業員への保安教育	— —
	2. 従業員について、保安教育実施方針に基づき、保安教育実施計画を定め、計画的に保安教育を実施することが定められていること。	第117条 第118条	所員への保安教育 請負会社従業員への保安教育	— —

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第7号 <b>【保安教育】</b>	3. 従業員について、保安教育実施方針に基づいた保安教育実施状況を確認することが定められていること。	第117条	所員への保安教育	—
	4. 燃料取替に関する業務の補助及び放射性廃棄物取扱設備に関する業務の補助を行う従業員については、当該業務に係る保安教育を実施することが定められていること。	第118条	請負会社従業員への保安教育	—
	5. 保安教育の内容について、関係法令及び保安規定への抵触を起こさないことを徹底する観点から、具体的な保安教育の内容、その見直しの頻度等について明確に定められていること。	第117条 第118条	所員への保安教育 請負会社従業員への保安教育	— —
実用炉規則第92条第1項第8号イからハまで <b>【発電用原子炉施設の運転に関する体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等】</b>	1. 発電用原子炉の運転に必要な運転員の確保について定められていること。	第12条	原子炉の運転員の確保	—
	2. 発電用原子炉施設の運転管理に係る組織内規程類を作成することが定められていること。	第12条の2	運転管理業務	—
	3. 運転員の引継時に実施すべき事項について定められていること。	第14条 第15条	手順書の作成 引継及び通知	— —
	4. 発電用原子炉の起動その他の発電用原子炉の運転に当たって確認すべき事項について定められていること。	第12条の2	運転管理業務	—
	5. 地震、火災、有毒ガス（予期せず発生するものを含む。）等の発生時に講ずべき措置について定められていること。	第16条 第17条	原子炉起動前の確認事項 地震又は火災等発生時の対応	— —
	6. 原子炉冷却材の水質の管理について定められていること。	第18条	水質管理	—
	7. 発電用原子炉施設の重要な機能に関して、安全機能を有する系統及び機器、重大事故等対処設備（特定重大事故等対処施設を構成する設備を含む。）等について、運転状態に対応した運転上の制限（Limiting Conditions for Operation. 以下「LCO」という。）、LCOを逸脱していないことの確認（以下「サーベイランス」という。）の実施方法及び頻度、LCOを逸脱した場合に要求される措置（以下単に「要求される措置」という。）並びに要求される措置の完了時間（Allowed Outage Time. 以下「AOT」という。）が定められていること。 なお、LCO等は、許可を受けたところによる安全解析の前提条件又はその他の設計条件を満足するように定められていること。	第19条	停止余裕	—
		第20条	反応度監視	—
		第21条	制御棒の動作確認（3号炉及び4号炉）	—
		第21条の2	制御棒の動作確認（5号炉）	—
		第22条	制御棒のスクラム機能	—
		第23条	制御棒の操作	—
		第24条	ほう酸水注入系	—
		第25条	原子炉熱的制限値	—
		第26条	原子炉熱出力及び炉心流量	—
		第27条	計測及び制御設備（3号炉及び4号炉）	—
		第27条の2	計測及び制御設備（5号炉）	—
		第28条	原子炉冷却材再循環ポンプ（3号炉及び4号炉）	—
		第28条の2	原子炉冷却材再循環ポンプ（5号炉）	—
		第29条	ジェットポンプ（3号炉及び4号炉）	—
		第30条	主蒸気逃がし安全弁	—
		第31条	原子炉格納容器内の原子炉冷却材漏えい率	—
		第32条	非常用炉心冷却系及び原子炉隔離冷却系の系統圧力監視	—
		第33条	原子炉冷却材中のよう素131濃度	—
		第34条	原子炉停止時冷却系その1	—
		第35条	原子炉停止時冷却系その2	—
		第36条	原子炉停止時冷却系その3	—
		第37条	原子炉冷却材温度及び原子炉冷却材温度変化率	—
		第38条	原子炉圧力	—
		第39条	非常用炉心冷却系その1（3号炉及び4号炉）	—
		第39条の2	非常用炉心冷却系その1（5号炉）	—
		第40条	非常用炉心冷却系その2	—
		第41条	原子炉隔離冷却系（3号炉及び4号炉）	—
第42条	主蒸気隔離弁	—		
第43条	原子炉格納容器及び原子炉格納容器隔離弁	—		
第44条	サブプレッション・チェンバからドライウェルへの真空破壊弁	—		
第45条	サブプレッションプールの平均水温	—		
第46条	サブプレッションプールの水位	—		
第47条	可燃性ガス濃度制御系	—		
第48条	原子炉格納容器内の酸素濃度	—		
第49条	原子炉建屋原子炉室	—		
第50条	原子炉建屋原子炉室給排気隔離弁	—		
第51条	非常用ガス処理系	—		
第52条	原子炉機器冷却水系及び原子炉機器冷却海水系	—		
第53条	高圧炉心スプレイ機器冷却水系及び高圧炉心スプレイ機器冷却海水系（3号炉及び4号炉）	—		
第54条	使用済燃料貯蔵プールの水位及び水温	—		
第55条	燃料又は制御棒を移動する時の原子炉ウエル水位	—		

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無	
実用炉規則第92条第1項第8号イからハまで <b>【発電用原子炉施設の運転に関する体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等】</b>	7. 発電用原子炉施設の重要な機能に関して、安全機能を有する系統及び機器、重大事故等対処設備（特定重大事故等対処施設を構成する設備を含む。）等について、運転状態に対応した運転上の制限（Limiting Conditions for Operation。以下「LCO」という。）、LCOを逸脱していないことの確認（以下「サーベイランス」という。）の実施方法及び頻度、LCOを逸脱した場合に要求される措置（以下単に「要求される措置」という。）並びに要求される措置の完了時間（Allowed Outage Time。以下「AOT」という。）が定められていること。 なお、LCO等は、許可を受けたところによる安全解析の前提条件又はその他の設計条件を満足するように定められていること。	第56条	中央制御室非常用循環系	—	
			第57条	外部電源その1	—
			第58条	外部電源その2	—
			第59条	非常用ディーゼル発電機その1	—
			第60条	非常用ディーゼル発電機その2	—
			第61条	非常用ディーゼル発電機燃料油等	—
			第62条	直流電源その1	—
			第63条	直流電源その2	—
			第64条	所内電源系統その1	—
			第65条	所内電源系統その2	—
			第66条	原子炉停止中の制御棒1本の引き抜き	—
			第67条	単一制御棒駆動機構の取り外し	—
			第68条	複数の制御棒引き抜き時の確認	—
			第69条	原子炉の昇温時の確認	—
第70条			原子炉モードスイッチの切替時の確認	—	
8. サーベイランスの実施方法については、確認する機能が必要となる事故時等の条件で必要な性能が発揮できるかどうかを確認（以下「実条件性能確認」という。）するために十分な方法（事故時等の条件を模擬できない場合等においては、実条件性能確認に相当する方法であることを検証した代替の方法を含む。）が定められていること。また、サーベイランス及び要求される措置を実施する時期の延長に関する考え方、サーベイランスの際のLCOの取扱い等が定められていること。	第71条	運転上の制限の確認	—		
9. LCOを逸脱した場合について、事象発見からLCOに係る判断までの対応目安時間等を組織内規程類に定めること及び要求される措置等の取扱方法が定められていること。	第72条	運転上の制限を満足しない場合	—		
10. LCOに係る記録の作成について定められていること。	第74条	運転上の制限に関する記録	—		
11. LCOを逸脱した場合のほか、緊急遮断等の異常発生時や監視項目が警報設定値を超過するなどの異状があった場合の基本的対応事項及び講ずべき措置並びに異常収束後の措置について定められていること。	第12条の2	運転管理業務	—		
		第17条の2	電源機能等喪失時の体制の整備	—	
		第75条	異常発生時の基本的な対応	—	
		第76条	異常時の措置	—	
		第77条	異常収束後の措置	—	
		添付-1	原子炉がスクラムした場合の手順（第76条関連）	—	
		第73条	予防保全を目的とした保全作業を実施する場合	—	
12. LCOが設定されている設備等について、予防保全を目的とした保全作業をその機能が要求されている発電用原子炉の状態においてやむを得ず行う場合には、当該保全作業が限定され、原則としてAOT内に完了することとし、必要な安全措置を定め、確率論的リスク評価（PRA: Probabilistic Risk Assessment）等を用いて措置の有効性を検証することが定められていること。		第11条	構成及び定義	—	
	第11条の2	原子炉の運転期間	—		
実用炉規則第92条第1項第8号二 <b>【発電用原子炉の運転期間】</b>	1. 発電用原子炉の運転期間の範囲内で、発電用原子炉を運転することが定められていること。	第81条	燃料の取替実施計画	—	
	2. 取替炉心の安全性評価を行うことが定められていること。なお、取替炉心の安全性評価に用いる期間は、当該取替炉心についての燃料交換の間隔から定まる期間としていること。	—	[手続きに関する事項であり、保安規定には、記載なし]	—	
	3. 実用炉規則第92条第2項第1号に基づき、実用炉規則第92条第1項第8号二に掲げる発電用原子炉の運転期間を定め、又はこれを変更しようとする場合は、申請書に発電用原子炉の運転期間の設定に関する説明書（発電用原子炉の運転期間を変更しようとする場合は、実用炉規則第82条第4項の見直しの結果を記載した書類を含む。以下単に「説明書」という。）が添付されていること。	—	[手続きに関する事項であり、保安規定には、記載なし]	—	
	4. 発電用原子炉ごとに、説明書に記載された①発電用原子炉を停止して行う必要のある点検及び検査の間隔から定まる期間、②燃料交換の間隔から定まる期間（発電用原子炉起動から次回の定期事業者検査を開始するために発電用原子炉を停止するまでの期間）、のうちいずれか短い期間の範囲内で、実用炉規則第55条に定める定期事業者検査を実施すべき時期の区分を上限として、発電用原子炉の運転期間（定期事業者検査が終了した日から次回の定期事業者検査を開始するために発電用原子炉を停止するまでの期間）が記載されていること。なお、発電用原子炉の運転期間の設定に当たっては、発電用原子炉を起動してから定期事業者検査が終了するまでの期間も考慮していること。 実用炉規則第82条第4項の見直しの結果の内容は、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド」（原管P発第1306198号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定））を参考として記載していること。	—	[手続きに関する事項であり、保安規定には、記載なし]	—	
	5. 特に、同結果において、発電用原子炉の運転期間の変更に伴う長期施設管理方針の変更の有無及びその理由が明らかとなっていること。	—	[手続きに関する事項であり、保安規定には、記載なし]	—	
	6. 発電用原子炉の運転期間を延長する場合には、実用炉規則第55条に定める定期事業者検査を実施すべき時期の区分を上限として、段階的に延長することとなっていること。	—	[運転期間の延長は実施していないことから、該当なし]	—	

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第8号二 【発電用原子炉の運転期間】	7. 運転期間が13月を超える延長の場合には、当該延長に伴う許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針に則した影響評価の結果が説明書に記載されていること。	—	[運転期間の延長は実施していないことから、該当なし]	—
	8. 説明書に記載された燃料交換の間隔から定まる期間については、期間を変更した後においても発電用原子炉の安全性について許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針を満たしていること。	—	[運転期間の延長は実施していないことから、該当なし]	—
実用炉規則第92条第1項第8号ホ【発電用原子炉施設の運転の安全審査】	1. 発電用原子炉施設の保安に関する重要事項及び発電用原子炉施設の保安運営に関する重要事項を審議する委員会の設置、構成及び審議事項について定められていること。	第6条	原子力発電保安審議会	—
		第7条	原子力発電所保安運営審議会	—
実用炉規則第92条第1項第9号【管理区域、保全区域及び周辺監視区域の設定等】	1. 管理区域を明示し、管理区域における他の場所と区別するための措置を定め、管理区域の設定及び解除において実施すべき事項が定められていること。	第91条	管理区域の設定及び解除	—
		添付-2	管理区域図(第91条及び第92条関連)	—
	2. 管理区域内の区域区分について、汚染のおそれのない管理区域及びそれ以外の管理区域について表面汚染密度及び空気中の放射性物質濃度の基準値が定められていること。	第92条	管理区域内における区域区分	—
		添付-2	管理区域図(第91条及び第92条関連)	—
	3. 管理区域内において特別措置が必要な区域について講ずべき措置を定め、特別措置を実施する外部放射線に係る線量当量率、空気中の放射性物質濃度及び床、壁その他の触れるおそれのある物の表面汚染密度の基準が定められていること。	第93条	管理区域内における特別措置	—
	4. 管理区域への出入管理に係る措置事項が定められていること。	第94条	管理区域への出入管理	—
	5. 管理区域から退出する場合等の表面汚染密度の基準が定められていること。	第94条	管理区域への出入管理	—
	6. 管理区域へ出入りする者に遵守させるべき事項及びそれを遵守させる措置が定められていること。	第95条	管理区域出入者の遵守事項	—
	7. 管理区域から物品又は核燃料物質等の搬出及び運搬をする際に講ずべき事項が定められていること。	第101条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
		第102条	発電所外への運搬	—
	8. 保全区域を明示し、保全区域についての管理措置が定められていること。	第105条	保全区域	—
		添付-3	保全区域図(第105条関連)	—
	9. 周辺監視区域を明示し、業務上立ち入る者を除く者が周辺監視区域に立ち入らないように制限するために講ずべき措置が定められていること。	第96条	周辺監視区域	—
10. 役務を供給する事業者に対して遵守させる放射線防護上の必要事項及びこれを遵守させる措置が定められていること。	第103条	請負会社の放射線防護	—	
実用炉規則第92条第1項第10号 【排気監視設備及び排水監視設備】	1. 放射性気体廃棄物及び放射性液体廃棄物の放出物質濃度の測定等の放出管理に係る設備の設置及び機能の維持の方法並びにその使用方法が定められていること。	第104条	頻度の定義	—
		第87条	放射性液体廃棄物の管理	—
	2. これらの設備の機能の維持の方法については、施設全体の管理方法の一部として、第18号における施設管理に関する事項と併せて定められていてもよい。また、これらの設備のうち放射線測定に係るものの使用方法については、施設全体の管理方法の一部として、第12号における放射線測定器の管理及び放射線の測定の方法に関する事項と併せて定められていてもよい。	第88条	放射性気体廃棄物の管理	—
		—	[1.の記載箇所についての説明であり、保安規定には記載なし]	—
実用炉規則第92条第1項第11号 【線量、線量当量、汚染の除去等】	1. 放射線業務従事者が受ける線量について、線量限度を超えないための措置(個人線量計の管理の方法を含む。)が定められていること。	第97条	放射線業務従事者の線量管理等	—
	2. 国際放射線防護委員会(ICRP)が1977年勧告で示した放射線防護の基本的考え方を示す概念(as low as reasonably achievable.以下「ALARA」という。)の精神にのっとり、放射線業務従事者が受ける線量を管理することが定められていること。	第2条	基本方針	—
		第90条の2	放射線管理に係る基本方針	—
	3. 実用炉規則第78条に基づく床、壁等の除染を実施すべき表面汚染密度の明確な基準が定められていること。	第98条	床、壁等の除染	—
	4. 管理区域及び周辺監視区域境界付近における線量当量率等の測定に関する事項が定められていること。	第99条	外部放射線に係る線量当量率等の測定	—
	5. 管理区域内で汚染のおそれのない区域に物品又は核燃料物質等を移動する際に講ずべき事項が定められていること。	第101条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
	6. 核燃料物質等(新燃料、使用済燃料及び放射性固体廃棄物を除く。)の工場又は事業所の外への運搬に関する行為(工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。)が定められていること。なお、この事項は、第13号又は第14号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第101条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
第102条		発電所外への運搬	—	
7. 原子炉等規制法第61条の2第2項により認可を受けた場合においては、同項により認可を受けた放射能濃度の測定及び評価の方法に基づき、当該認可を受けた申請書等において記載された内容を満足するよう、同条第1項の確認を受けようとする物に含まれる放射性物質の放射能濃度の測定及び評価を行い、適切に取り扱うことが定められていること。なお、この事項は、放射性廃棄物との仕分け等を明確にするため、第14号における放射性廃棄物の管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	第86条の2の2	放射能濃度確認対象物及び放射能濃度の確認を受けた物の管理	—	

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無	
実用炉規則第92条第1項第11号 <b>【線量、線量当量、汚染の除去等】</b>	8. 放射性廃棄物でない廃棄物の取扱いに関する事については、「原子力施設における「放射性廃棄物でない廃棄物」の取扱いについて(指示)」(平成20・04・21原院第1号(平成20年5月27日原子力安全・保安院制定(NISA-111a-08-1)))を参考として定められていること。なお、この事項は、放射性廃棄物との仕分け等を明確にするため、第14号における放射性廃棄物の管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	第86条の3	放射性廃棄物でない廃棄物の管理	—	
	9. 汚染拡大防止のための放射線防護上、必要な措置が定められていること。	第91条	管理区域の設定及び解除	—	
		第92条	管理区域内における区域区分	—	
		第95条	管理区域出入者の遵守事項	—	
		第98条	床、壁等の除染	—	
		第101条	管理区域外等への搬出及び運搬	—	
実用炉規則第92条第1項第12号 <b>【放射線測定器の管理及び放射線の測定の方法】</b>	1. 放射線測定器(放出管理用計測器及び放射線計測器を含む。以下同じ。)の種類、所管箇所、数量及び機能の維持の方法並びにその使用方法(測定及び評価の方法を含む。)が定められていること。	第89条	放出管理用計測器の管理	—	
	2. 放射線測定器の機能の維持の方法については、施設全体の管理方法の一部等として、第18号における施設管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	第100条	放射線計測器類の管理	—	
実用炉規則第92条第1項第13号 <b>【核燃料物質の受払、運搬、貯蔵等】</b>	1. 工場又は事業所内における新燃料の運搬及び貯蔵並びに使用済燃料の運搬及び貯蔵に際して、臨界に達しないようにする措置その他の保安のために講ずべき措置を講ずること、貯蔵施設における貯蔵の条件等が定められていること。	第78条	新燃料の運搬	—	
		第79条	新燃料の貯蔵	—	
		第84条	使用済燃料の貯蔵	—	
	2. 新燃料及び使用済燃料の工場又は事業所の外への運搬に関する行為(工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。)に關することが定められていること。なお、この事項は、第11号又は第14号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第85条	使用済燃料の運搬	—	
		第78条	新燃料の運搬	—	
	3. 燃料取替に際して、炉心の核的制限値及び熱的制限値の範囲内で運転するために取替炉心の安全性評価を許可を受けたところによる安全評価と同様に行った上で燃料装荷実施計画を定めること及び燃料移動手順に従うこと等が定められていること。なお、発電用原子炉の運転期間の設定に関する説明書において取替炉心ごとに管理するとして項目が、取替炉心の安全性評価項目等として定められていること。	第85条	使用済燃料の運搬	—	
実用炉規則第92条第1項第14号 <b>【放射性廃棄物の廃棄】</b>	1. 放射性固体廃棄物の貯蔵及び保管に係る具体的な管理措置並びに運搬に関し、放射線安全確保のための措置が定められていること。	第81条	燃料の取替実施計画	—	
	2. 放射性液体廃棄物の固化等の処理及び放射性廃棄物の工場又は事業所の外への廃棄(放射性廃棄物の輸入を含む。)に関する行為の実施体制が定められていること。	第86条	放射性固体廃棄物の管理	—	
	3. 放射性固体廃棄物の工場又は事業所の外への運搬に関する行為(工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。)に係る体制が構築されていることが明記されていること。なお、この事項は、第11号及び第13号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第86条	放射性固体廃棄物の管理	—	
	4. 放射性液体廃棄物の放出箇所、放射性液体廃棄物の放出管理目標値及び基準値を満たすための放出管理方法並びに放射性液体廃棄物の放出物質濃度の測定項目及び頻度が定められていること。	第86条	放射性固体廃棄物の管理	—	
	5. 放射性気体廃棄物の放出箇所、放射性気体廃棄物の放出管理目標値を満たすための放出管理方法並びに放射性気体廃棄物の放出物質濃度の測定項目及び頻度が定められていること。	第87条	放射性液体廃棄物の管理	—	
	6. 平常時の環境放射線モニタリングの実施体制(計画、実施、評価等)について定められていること。	第87条	放射性気体廃棄物の管理	—	
	7. ALARAの精神にのっとり、排気、排水等を管理することが定められていること。	第99条の2	平常時の環境放射線モニタリング	—	
		第2条	基本方針	—	
	実用炉規則第92条第1項第15号 <b>【非常の場合に講ずべき処置】</b>	1. 緊急時に備え、平常時から緊急時に実施すべき事項が定められていること。	第85条の2	放射性廃棄物管理に係る基本方針	—
			第86条の2	放射性固体廃棄物の識別管理	—
2. 緊急時における運転に関する組織内規程類を作成することが定められていること。		第86条の4	事故由来放射性物質の降下物の影響確認	—	
		第90条	頻度の定義	—	
3. 緊急事態発生時は定められた通報経路に従い、関係機関に通報することが定められていること。		第107条	原子力防災組織	—	
		第108条	原子力防災組織の要員	—	
4. 緊急事態の発生をもってその後の措置は、原子力災害対策特別措置法(平成11年法律第156号)第7条第1項の原子力事業者防災業務計画によることが定められていること。		第109条	原子力防災資機材等	—	
		第109条	原子力防災資機材等	—	
5. 緊急事態が発生した場合は、緊急時体制を発令し、応急措置及び緊急時における活動を実施することが定められていること。		第109条	通報経路	—	
		第112条	通報	—	
	第107条	原子力防災組織	—		
第113条	緊急体制の発令	—			
第114条	応急措置	—			
第115条	緊急時における活動	—			



保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第15号 <b>【非常の場合に講ずべき処置】</b>	6. 次に掲げる要件に該当する放射線業務従事者を緊急作業に従事させるための要員として選定することが定められていること。 (1) 緊急作業時の放射線の生体に与える影響及び放射線防護措置について教育を受けた上で、緊急作業に従事する意思がある旨を発電用原子炉設置者に書面で申し出た者であること。 (2) 緊急作業についての訓練を受けた者であること。 (3) 実効線量について250mSvを線量限度とする緊急作業に従事する従業員は、原子力災害対策特別措置法第8条第3項に規定する原子力防災要員、同法第9条第1項に規定する原子力防災管理者又は同条第3項に規定する副原子力防災管理者であること。	第108条の2	緊急作業従事者の選定	—
	7. 放射線業務従事者が緊急作業に従事する期間中の線量管理(放射線防護マスクの着用等による内部被ばくの管理を含む。)、緊急作業を行った放射線業務従事者に対し、健康診断を受診させる等の非常の場合に講ずべき処置に関し、適切な内容が定められていること。	第115条の2	緊急作業従事者の線量管理等	—
	8. 事象が収束した場合には、緊急時体制を解除することが定められていること。	第116条	緊急体制の解除	—
	9. 防災訓練の実施頻度について定められていること。	第111条	緊急時演習	—
実用炉規則第92条第1項第16号 <b>【設計想定事象等に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置】</b>	1. 許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針に則した対策が機能するよう、想定する事象に応じて、次に掲げる措置を講ずることが定められていること。	—	[以下参照]	—
	(1) 発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動に関する計画を策定し、要員を配置するとともに、計画に従って必要な活動を行わせること。特に、当該計画には、次に掲げる事項を含めること。	第17条	地震又は火災等発生時の対応	—
	イ 火災 可燃物の管理、消防吏員への通報、消火又は延焼の防止その他消防隊が火災の現場に到着するまでに行う活動に関すること。	第17条	地震又は火災等発生時の対応	—
	ロ 火山現象による影響(影響が発生するおそれを含む。以下「火山影響等」という。) ① 火山影響等発生時における非常用交流動力電源設備の機能を維持するための対策に関すること。 ② ①に掲げるもののほか、火山影響等発生時における代替電源設備その他の炉心を冷却するために必要な設備の機能を維持するための対策に関すること。 ③ ②に掲げるもののほか、火山影響等発生時に交流動力電源が喪失した場合における炉心の著しい損傷を防止するための対策に関すること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし(補正申請後、審査を受ける予定)]	—
	ハ 重大事故に至るおそれのある事故(運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を除く。)又は重大事故(以下「重大事故等」という。) ① 重大事故等発生時における炉心の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ② 重大事故等発生時における原子炉格納容器の破損を防止するための対策に関すること。 ③ 重大事故等発生時における使用済燃料貯蔵設備に貯蔵する燃料体の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ④ 重大事故等発生時における原子炉停止時の燃料体の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ⑤ 重大事故等(原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによるものを除く。)発生時における特定重大事故等対処施設を用いた対策(上記①から④までの対策に関することを含む。)に関すること。 ⑥ 発生する有毒ガスからの運転員等の防護に関すること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし(補正申請後、審査を受ける予定)]	—
	ニ 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設の大規模な損壊(以下「大規模損壊」という。) ① 大規模損壊発生時における大規模な火災が発生した場合における消火活動に関すること。 ② 大規模損壊発生時における炉心の著しい損傷を緩和するための対策に関すること。 ③ 大規模損壊発生時における原子炉格納容器の破損を緩和するための対策に関すること。 ④ 大規模損壊発生時における使用済燃料貯蔵槽の水位を確保するための対策及び燃料体の著しい損傷を緩和するための対策に関すること。 ⑤ 大規模損壊発生時における放射性物質の放出を低減するための対策に関すること。 ⑥ 重大事故等(原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによるものに限る。)発生時における特定重大事故等対処施設を用いた対策に関すること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし(補正申請後、審査を受ける予定)]	—
	(2) (1)に掲げる措置のうち重大事故等発生時又は大規模損壊発生時におけるそれぞれの措置に係る手順については、それぞれ次に掲げるとおりとすること。	—	[以下参照]	—

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第16号 【設計想定事象等に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置】	イ 重大事故等発生時 ① 許可を受けた対応手段、重要な配慮事項、有効性評価の前提条件となる操作の成立性に係る事項が定められ、定められた内容が重大事故等対しの確かつ柔軟に対処することを妨げるものでないこと。 ② 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防ぐために最優先すべき操作等の判断基準の基本的な考え方が定められていること。 原子炉格納容器の過圧破損の防止に係る手順については、格納容器圧力逃がし装置を設けている場合、格納容器代替循環冷却系又は格納容器再循環ユニットにより原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させる手順を、格納容器圧力逃がし装置による手順に優先して実施することが定められているとともに、原子炉格納容器内の圧力が高い場合など、必要な状況においては確実に格納容器圧力逃がし装置を使用することが定められていること。 ③ 措置に係る手順の優先順位や手順着手の判断基準等（②に関するものを除く。）については記載を要しない。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（特定重大事故対所施設に係る対応のための変更認可を申請後、審査を受ける予定）]	—
	ロ 大規模損壊発生時 定められた内容が大規模損壊対しの確かつ柔軟に対処することを妨げるものでないこと。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（特定重大事故対所施設に係る対応のための変更認可を申請後、審査を受ける予定）]	—
	(3) 必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練に関すること。特に重大事故等又は大規模損壊の発生時における発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練については、それぞれ毎年1回以上定期に実施すること及び重大事故等対所施設の使用を開始するに当たって必要な教育及び訓練をあらかじめ実施すること。	[(1)に同じ]	[(1)に同じ]	—
	(4) 必要な機能を維持するための活動を行うために必要な電源車、消防自動車、化学消防自動車、泡消火薬剤、消火ホース、照明器具、無線機器、フィルターその他の資機材を備え付けること。	第17条	地震又は火災等発生時の対応	—
	(5) その他必要な機能を維持するための活動を行うために必要な体制を整備すること。	[(1)に同じ]	[(1)に同じ]	—
	2. 重大事故等又は大規模損壊が発生した場合において、核燃料物質若しくは核燃料物質によって汚染された物又は発電用原子炉による災害を防止するために必要があると認めるときは、組織内規程類にあらかじめ定めた計画及び手順にとられず、発電用原子炉施設の保全のための所要の措置を講ずることが定められていること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（特定重大事故対所施設に係る対応のための変更認可を申請後、審査を受ける予定）]	—
実用炉規則第92条第1項第17号 【記録及び報告】	1. 発電用原子炉施設に係る保安に関し、必要な記録を適正に作成し、管理することが定められていること。その際、保安規定及びその下位文書において、必要な記録を適正に作成し、管理するための措置が定められていること。	第3条 第119条	品質マネジメントシステム計画 記録	— —
	2. 実用炉規則第67条に定める記録について、その記録の管理に関すること（計量管理規定及び核物質防護規定で定めるものを除く。）が定められていること。	第119条	記録	—
	3. 発電所長及び発電用原子炉主任技術者に報告すべき事項が定められていること。	第9条 第120条	発電用原子炉主任技術者の職務等 報告	— —
	4. 特に、実用炉規則第134条各号に掲げる事故故障等の事象及びこれらに準ずるものが発生した場合においては、経営責任者に確実に報告がなされる体制が構築されていることなど、安全確保に関する経営責任者の強い関与が明記されていること。	第120条	報告	—
	5. 当該事故故障等の事象に準ずる重大な事象について、具体的に明記されていること。	第120条	報告	—
実用炉規則第92条第1項第18号 【発電用原子炉施設の施設管理】	1. 施設管理方針、施設管理目標及び施設管理実施計画の策定並びにこれらの評価及び改善について、「原子力事業者等における使用前事業者検査、定期事業者検査、保安のための措置等に係る運用ガイド」（原規規発第1912257号-7（令和元年12月25日原子力規制委員会決定））を参考として定められていること。	第13条 第106条 第106条の2 第106条の3	巡視点検 施設管理計画 設計管理 作業管理	— — — —
	2. 発電用原子炉施設の経年劣化に係る技術的な評価に関することについては、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド」を参考とし、実用炉規則第82条に規定された発電用原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価を実施するための手順及び体制を定め、当該評価を定期的に行うことが定められていること。	第106条の6	原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針	—
	3. 運転を開始した日以後30年を経過した発電用原子炉については、長期施設管理方針が定められていること。	添付-4	長期施設管理方針（第106条の6関連）	—

保安規定審査基準		保安規定第1編		変更有無
実用炉規則第92条第1項第18号 【発電用原子炉施設の施設管理】	4. 実用炉規則第92条第1項第18号に掲げる発電用原子炉施設の施設管理に関することを変更しようとする場合（実用炉規則第82条第1項から第3項までの規定により長期施設管理方針を策定し、又は同条第4項の規定により長期施設管理方針を変更しようとする場合に限る。）は、申請書に実用炉規則第82条第1項、第2項若しくは第3項の評価の結果又は第4項の見直しの結果を記載した書類（以下「技術評価書」という。）が添付されていること。	—	[手続きに関する事項であり保安規定には記載なし]	—
	5. 長期施設管理方針及び技術評価書の内容は、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策の実施ガイド」を参考として記載されていること。	添付-4	長期施設管理方針（第106条の6関連）	—
	6. 使用前事業者検査及び定期事業者検査の実施に関することが定められていること。	第106条の4	使用前事業者検査の実施	—
		第106条の5	定期事業者検査の実施	—
7. 燃料体に関する定期事業者検査として、装荷予定の照射された燃料のうちから選定したものの健全性に異常のないことを確認すること、燃料使用の可否を判断すること等が定められていること。	第80条	燃料の検査	—	
実用炉規則第92条第1項第19号 【技術情報の共有】	1. プラントメーカーなどの保守点検を行った事業者から得られた保安に関する技術情報をBWR事業者協議会、PWR事業者連絡会等の事業者の情報共有の場を活用し、他の発電用原子炉設置者と共有し、自らの発電用原子炉施設の保安を向上させるための措置が定められていること。	第106条	施設管理計画	—
実用炉規則第92条第1項第20号 【不適合発生時の情報の公開】	1. 発電用原子炉施設の保安の向上を図る観点から、不適合が発生した場合の公開基準が定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	2. 情報の公開に関し、原子力施設情報公開ライブラリーへの登録等に必要事項が定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
実用炉規則第92条第1項第21号 【その他必要な事項】	1. 日常のQMSに係る活動の結果を踏まえ、必要に応じ、発電用原子炉施設に係る保安に関し必要な事項を定めていること。	第1条	目的	—
	2. 保安規定を定める「目的」が、核燃料物質、核燃料物質によって汚染された物又は発電用原子炉による災害の防止を図るものとして定められていること。	第1条	目的	—

## 2. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定の記載内容

項 目	説 明 内 容
関連する実用炉規則	○「黒字」により、保安規定審査基準に関連する実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則の内容を記載する。
保安規定審査基準	○「黒字」により、保安規定審査基準【実用炉】(H25.6.19 制定、R2.4.1 最終改正)の内容を記載する
記載すべき内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「黒字」により、<b>保安規定第1編</b>に記載すべき内容を記載する。</li> <li>○「<u>黒字(赤下線)</u>」により、<b>保安規定第1編</b>の変更内容を表示する。</li> <li>○ 記載に当たっては、保安規定の体系が分かる範囲で記載する。</li> </ul>
記載の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>保安規定第1編</b>に記載すべき内容の記載の考え方を記載する。</li> <li>○ <b>保安規定第1編</b>に記載しない場合の考え方を記載する。</li> <li>○ 変更後の<b>保安規定第1編</b>の記載すべき内容が保安規定審査基準の要求事項を満たしていることを確認した結果を記載する。</li> <li>○ 「主要な変更対象の項目」として抽出されなかった項目については、保安規定審査基準の要求事項と<b>保安規定第1編</b>の記載内容の対比を行い、今回の変更認可申請に含めていない理由を記載する。</li> </ul>

保安規定審査基準の要求事項に対する浜岡原子力発電所原子炉施設保安規定の記載内容

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	保安規定第1編	
		記載すべき内容	記載の考え方
<p>(保安規定) 第九十二条 法第四十三条の三の二十四第一項の規定による保安規定の認可を受けようとする者は、認可を受けようとする工場又は事業所ごとに、次に掲げる事項について保安規定を定め、これを記載した申請書を原子力規制委員会に提出しなければならない。</p>	<p>発電用原子炉設置者は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和32年法律第166号。以下「原子炉等規制法」という。）第43条の3の24第1項の規定に基づき、工場又は事業所ごとに保安規定を定め、発電用原子炉施設の設置の工事に着手する前に原子力規制委員会の認可を受けることが義務付けられている。</p> <p>これを受け、認可を受けようとする発電用原子炉設置者は、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和53年通商産業省令第77号。以下「実用炉規則」という。）第92条第1項各号において規定されている事項について定め、申請書を提出することが求められている。</p> <p>申請書を受理した原子力規制委員会は、発電用原子炉設置者から申請された保安規定について、原子炉等規制法第43条の3の24第2項に定める認可要件である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉等規制法第43条の3の5第1項若しくは第43条の3の8第1項の許可を受けたところ又は同条第3項若しくは第4項前段の規定により届け出たところによるものでないこと</li> <li>核燃料物質若しくは核燃料物質によって汚染された物又は発電用原子炉による災害の防止上十分でないものであると認められないこと</li> </ul> <p>を確認するための審査を行うこととしている。</p> <p>したがって、保安規定の審査における基準を明確にする観点から、保安規定の認可の審査に当たって確認すべき事項を次のとおり定める。</p> <p>ただし、実用炉規則第92条第1項各号において定められている事項の中には、設置の工事に着手する段階で定めることが困難であり、かつ、それらをその段階で定めていなくても災害の防止上支障がない事項が存在することから、核燃料物質を初めて工場若しくは事業所に搬入又は原子炉に装荷するまでの間において適用される保安規定の審査に当たっては、それらの事項を定める時期が設定されていること及びその時期までにそれらの事項を定めることにより、災害の防止上支障がないものと認められることを審査において確認することとする。</p>	<p>[手続きに関する事項であり、保安規定には記載なし]</p>	<p>—</p>
<p>三 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者の職務及び組織に関すること（次号に掲げるものを除く。）。</p>	<p><b>実用炉規則第92条第1項第3号</b> 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者の職務及び組織</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
		<p>(保安に関する組織) 第4条 [略]</p>	<p>・変更なし (浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直しに伴う変更であり、保安に関する本店組織の変更ではない)</p>
		<p>(保安に関する職務) 第5条 職務については、以下に定める保安に関する職務のほか、会社規程である組織管理規程に従って行う。 2 保安に関する職務のうち、本店組織の職務は次のとおり。 [略]</p>	<p>・変更なし (浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直しに伴う変更であり、本店組織の保安に関する職務の変更ではない)</p>
		<p>(保安に関する組織) 第4条 [略]</p> <p>(保安に関する職務) 第5条 [略] 2 [略] 3 浜岡原子力総合事務所長は、発電所長の行う保安活動を統括する。 4 保安に関する職務のうち、発電所組織の職務は次のとおり。 (1)～(20) [略] (21) 保守部長は、保守管理課長、設備保全課長、改良工事グループ長、原子炉課長、タービン課長、電気課長及び計測課長の所管する業務を統括する。 (22) 保守管理課長は、原子炉施設の施設管理の総括に関する業務（設備保全課長が所管する業務を除く。）を行う。 (23) <b>設備保全課長</b>は、原子炉施設の施設管理に関する業務（原子炉課長、タービン課長、電気課長、計測課長、土木課長及び<b>建築課長</b>が所管する業務を除く。）及び保全の総括に関する業務を行う。 (24)～(31) [略] (32) 廃止措置部長は、廃止措置計画課長、廃止措置工事課長及び廃棄物管理課長の所管する業務を統括する。 (33) <b>廃棄物管理課長</b>は、放射性固体廃棄物の管理及び原子炉施設のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務を行う。 (34)～(37) [略]</p>	<p>・変更なし (浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直しに伴う変更であり、保安に関する発電所組織の変更ではない)</p> <p>・浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直しにより、廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務を廃止措置部の廃棄物管理課から保守部の設備保全課に移管することに伴い、設備保全課長及び廃棄物管理課長の保安に関する職務の内容を変更する。</p> <p>・上記のとおり、浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直しに伴い、設備保全課長及び廃棄物管理課長の保安に関する職務内容の記載を一部変更するものであり、既認可同様、浜岡原子力発電所の発電用原子炉施設に係る保安のために講ずべき措置に必要な各職位の職務内容を定めている。</p>

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	保安規定第1編		
		記載すべき内容	記載の考え方	
七 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者に対する保安教育に関することであって次に掲げるもの イ 保安教育の実施方針（実施計画の策定を含む。）に関すること。 ロ 保安教育の内容に関することであって次に掲げるもの (1) 関係法令及び保安規定の遵守に関すること。 (2) 発電用原子炉施設の構造、性能及び運転に関すること。 (3) 放射線管理に関すること。 (4) 核燃料物質及び核燃料物質によって汚染された物の取扱いに関すること。 (5) 非常の場合に講ずべき処置に関すること。	実用炉規則第9条第1項第7号 保安教育	—	—	
	1. 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者（役務を供給する事業者に属する者を含む。以下「従業員」という。）について、保安教育実施方針が定められていること。	(所員への保安教育) 第117条 [略]	<p>(請負会社従業員への保安教育) 第118条 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 運転管理課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、放射性廃棄物処理設備に関する業務又は廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設に関する業務の補助を請負会社が行う場合、毎年度、当該業務に従事する従業員に対し、表117-1、表117-2及び表117-3の実施方針のうち、「放射性廃棄物処理設備の業務に関わる者」又は「廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の業務に関わる者」に準じる保安教育実施計画を定めていることを確認し、その内容を発電用原子炉主任技術者の確認を得た上で所長の承認を得る。</p> <p>4 運転管理課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、前項の保安教育実施計画に基づき保安教育が実施されていることを確認し、その実施結果を年度毎に所長に報告する。なお、教育の実施状況を確認するため教育現場に適宜立ち会う。</p> <p>ただし、運転管理課長又は<b>廃棄物管理課長</b>が、所長により別途承認された基準に従い、各項目の全部又は一部について十分な知識及び技能を有しているものと認められた者については、該当する教育について省略することができる。</p> <p>5・6 [略]</p>	<p>・変更なし</p> <p>(実用炉規則第92条第1項第7号(保安教育)に対応し保安規定審査基準の要求事項(左記保安規定審査基準欄の1.から5.を参照)を満たすため、本条に規定する放射性廃棄物処理設備に関する業務又は廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設に関する業務は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務、すなわち放射性固体廃棄物の管理及び原子炉施設のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない)</p>
	2. 従業員について、保安教育実施方針に基づき、保安教育実施計画を定め、計画的に保安教育を実施することが定められていること。			
	3. 従業員について、保安教育実施方針に基づいた保安教育実施状況を確認することが定められていること。			
	4. 燃料取替に関する業務の補助及び放射性廃棄物取扱設備に関する業務の補助を行う従業員については、当該業務に係る保安教育を実施することが定められていること。			
5. 保安教育の内容について、関係法令及び保安規定への抵触を起さないことを徹底する観点から、具体的な保安教育の内容、その見直しの頻度等について明確に定められていること。				
八 発電用原子炉施設の運転に関することであって、次に掲げるもの イ 発電用原子炉の運転を行う体制の整備に関すること。 ロ 発電用原子炉の運転に当たって確認すべき事項及び運転の操作に必要な事項 ハ 異状があった場合の措置に関すること(第十五号に掲げるものを除く。)	実用炉規則第9条第1項第8号イからハまで 発電用原子炉施設の運転に関する体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者の職務及び組織	—	—	
	2. 発電用原子炉施設の運転管理に係る組織内規程類を作成することが定められていること。	(運転管理業務) 第12条の2 各課長は、原子炉の状態に応じた原子力安全への影響度を考慮して原子炉施設を安全な状態に維持するとともに、事故等を安全に収束させるため、運転管理に関する次の各号を実施する。 (1) 発電指令課長及び <b>廃棄物管理課長</b> は、原子炉施設の運転に関する次の事項を実施する。 イ 中央制御室における監視、第13条第1項の巡視点検及び同条第2項の巡視によって、施設の状態管理を実施し、その結果、機器に異状があれば関係課長に通知する。 ロ 運転操作(状態管理を含む。)を実施する。 ハ 原子炉施設に係る警報発生時の対応操作を実施する。 ニ 原子炉施設の設備故障及び事故発生時の対応操作を実施する。 (2) 発電指令課長及び <b>廃棄物管理課長</b> は、関係課長の依頼に基づく運転操作(状態管理を含む。)が必要な場合は、(1)ロによる運転操作(状態管理を含む。)を実施する。また、関係課長は、発電指令課長又は <b>廃棄物管理課長</b> から引き渡された系統に対して、必要な作業を行い、作業完了後に発電指令課長又は <b>廃棄物管理課長</b> へ系統を引き渡す。 (3) [略]	<p>・変更なし</p> <p>(実用炉規則第92条第1項第8号(発電用原子炉施設の運転に関すること)に対応し保安規定審査基準の要求事項(発電用原子炉施設の運転管理に係る組織内規程類を作成することが定められていること)を満たすため、第4章(運転管理)の本条に規定する廃棄物管理課長が実施する運転管理業務は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない)</p>	
		(手順書の作成) 第14条 運転管理課長及び <b>廃棄物管理課長</b> は、次の各号に掲げる発電指令課長又は <b>廃棄物管理課長</b> が実施する原子炉施設の運転管理、施設管理及び異常時の措置に関する事項の手順書を作成し、制定及び改定にあたっては、第7条第2項に基づき保安運営審議会の確認を得る。 (1) 原子炉施設の運転管理に関する事項 ア. 原子炉の起動及び停止操作に関する事項 イ. 警報発生時の処置に関する事項 ウ. 原子炉施設の各設備の運転操作に関する事項 (2) 原子炉施設の施設管理に関する事項 ア. 巡視点検に関する事項 イ. 定期的実施するサーベイランスに関する事項 (3) 原子炉施設の異常時の措置に関する事項 ア. 異常時の操作に関する事項(引継及び通知)	<p>・変更なし</p> <p>(実用炉規則第92条第1項第8号(発電用原子炉施設の運転に関すること)に対応し保安規定審査基準の要求事項(発電用原子炉施設の運転管理に係る組織内規程類を作成することが定められていること)を満たすため、第4章(運転管理)の本条に規定する廃棄物管理課長が実施する手順書の作成に係る業務は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない)</p>	

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	保安規定第1編	
		記載すべき内容	記載の考え方
<p>八 発電用原子炉施設の運転に関する ことであって、次に掲げるもの</p> <p>イ 発電用原子炉の運転を行う体制 の整備に関すること。</p> <p>ロ 発電用原子炉の運転に当たって 確認すべき事項及び運転の操作に 必要な事項</p> <p>ハ 異状があった場合の措置に関す ること（第十五号に掲げるものを 除く。）。</p>	<p>実用炉規則第92条第1項第8号イからハまで 発電用原子炉施設の運転に関する 体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等発電用原子炉施設の運転及び管 理を行う者の職務及び組織</p>	—	—
	<p>4. 発電用原子炉の起動その他の発電用原子炉の運転に当たって確認すべき事項に ついて定められていること。</p>	<p>(運転管理業務)</p> <p>第12条の2 各課長は、原子炉の状態に応じた原子力安全への影響度を考慮して原子炉施設を安 全な状態に維持するとともに、事故等を安全に収束させるため、運転管理に関する次の各号 を実施する。</p> <p>(1) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、原子炉施設の運転に関する次の事項を実施する。 イ 中央制御室における監視、第13条第1項の巡視点検及び同条第2項の巡視によって、 施設の状態管理を実施し、その結果、機器に異状があれば関係課長に通知する。 ロ 運転操作（状態管理を含む。）を実施する。 ハ 原子炉施設に係る警報発生時の対応操作を実施する。 ニ 原子炉施設の設備故障及び事故発生時の対応操作を実施する。</p> <p>(2) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、関係課長の依頼に基づく運転操作（状態管理を含 む。）が必要な場合は、(1)ロによる運転操作（状態管理を含む。）を実施する。また、関係 課長は、発電指令課長又は<b>廃棄物管理課長</b>から引き渡された系統に対して、必要な作業を行 い、作業完了後に発電指令課長又は<b>廃棄物管理課長</b>へ系統を引き渡す。</p> <p>(3) [略]</p>	<p>・変更なし</p> <p>（実用炉規則第92条第1項第8号（発電用原子炉施設の運転に関する こと）に対応し保安規定審査基準の要求事項（発電用原子炉の起動その 他の発電用原子炉の運転に当たって確認すべき事項について定められて いること）を満たすため、第4章（運転管理）の本条に規定する廃棄物 管理課長が実施する運転管理業務は、第5条に定める廃棄物管理課長の 職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関 する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分 掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務 ではないため、変更しない）</p>
	<p>5. 地震、火災、有毒ガス（予期せず発生するものを含む。）等の発生時に講ずべ き措置について定められていること。</p>	<p>(地震又は火災等発生時の対応)</p> <p>第17条 [略]</p> <p>(1)・(2) [略]</p> <p>2 初期消火活動のための体制の整備として、次の措置を講じる。 (1)・(2)・(3) [略]</p> <p>(4) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、第13条に定める巡視により、火災発生の有無を確 認する。 (5)・(6) [略]</p> <p>3 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、山火事、台風、津波等の影響により、原子炉施設に 重大な影響を及ぼす可能性があるると判断した場合は、発電部長又は廃止措置部長に報告す る。発電部長又は廃止措置部長は、所長、発電用原子炉主任技術者及び各部長に連絡すると ともに、必要に応じて原子炉停止等の措置について協議する。</p>	<p>・変更なし</p> <p>（実用炉規則第92条第1項第8号（発電用原子炉施設の運転に関する こと）に対応し保安規定審査基準の要求事項（地震、火災、有毒ガス （予期せず発生するものを含む。）等の発生時に講ずべき措置について 定められていること）を満たすため、第4章（運転管理）の本条に規定 する廃棄物管理課長が実施する地震又は火災等発生時の対応は、廃棄物 管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設 の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組 織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に 関する業務ではないため、変更しない）</p>
<p>11. LCOを逸脱した場合のほか、緊急遮断等の異常発生時や監視項目が警報設 定値を超過するなどの異状があった場合の基本的対応事項及び講ずべき措置並 びに異常収束後の措置について定められていること。</p>	<p>(運転管理業務)</p> <p>第12条の2 各課長は、原子炉の状態に応じた原子力安全への影響度を考慮して原子炉施設を安 全な状態に維持するとともに、事故等を安全に収束させるため、運転管理に関する次の各号 を実施する。</p> <p>(1) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、原子炉施設の運転に関する次の事項を実施する。 イ 中央制御室における監視、第13条第1項の巡視点検及び同条第2項の巡視によって、 施設の状態管理を実施し、その結果、機器に異状があれば関係課長に通知する。 ロ 運転操作（状態管理を含む。）を実施する。 ハ 原子炉施設に係る警報発生時の対応操作を実施する。 ニ 原子炉施設の設備故障及び事故発生時の対応操作を実施する。</p> <p>(2) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、関係課長の依頼に基づく運転操作（状態管理を含 む。）が必要な場合は、(1)ロによる運転操作（状態管理を含む。）を実施する。また、関係 課長は、発電指令課長又は<b>廃棄物管理課長</b>から引き渡された系統に対して、必要な作業を行 い、作業完了後に発電指令課長又は<b>廃棄物管理課長</b>へ系統を引き渡す。</p> <p>(3) [略]</p>	<p>・変更なし</p> <p>（実用炉規則第92条第1項第8号（発電用原子炉施設の運転に関する こと）に対応し保安規定審査基準の要求事項（LCOを逸脱した場合の ほか、緊急遮断等の異常発生時や監視項目が警報設定値を超過するなど の異状があった場合の基本的対応事項及び講ずべき措置並びに異常収束 後の措置について定められていること）を満たすため、第4章（運転管 理）の本条に規定する廃棄物管理課長が実施する運転管理業務は、第5 条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設 置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所 の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理 装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない）</p>	
	<p>(異常発生時の基本的な対応)</p> <p>第75条 [略]</p> <p>2 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、放射性物質の原子炉施設外への漏えいがある場合又 はそのおそれがあると判断した場合には、発電部長又は廃止措置部長に報告するとともに、 それを抑制するために、原子炉建屋原子炉室の隔離、気体廃棄物処理系の隔離等の必要な措 置を講じる。</p> <p>3 [略]</p>	<p>・変更なし</p> <p>（実用炉規則第92条第1項第8号（発電用原子炉施設の運転に関する こと）に対応し保安規定審査基準の要求事項（LCOを逸脱した場合の ほか、緊急遮断等の異常発生時や監視項目が警報設定値を超過するなど の異状があった場合の基本的対応事項及び講ずべき措置並びに異常収束 後の措置について定められていること）を満たすため、第4章（運転管 理）の本条に規定する廃棄物管理課長が実施する異常発生時の基本的な 対応は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理 装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡 原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃 棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない）</p>	

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	保安規定第1編	
		記載すべき内容	記載の考え方
十六 設計想定事象、重大事故等又は大規模損壊に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置に関すること。	<p><b>実用炉規則第92条第1項第16号</b> 設計想定事象等に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置</p> <p>1. 許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針に則した対策が機能するよう、想定する事象に応じて、次に掲げる措置を講ずることが定められていること。</p> <p>(1) 発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動に関する計画を策定し、要員を配置するとともに、計画に従って必要な活動を行わせること。特に、当該計画には、次に掲げる事項を含めること。</p> <p>イ 火災 可燃物の管理、消防吏員への通報、消火又は延焼の防止その他消防隊が火災の現場に到着するまでに行う活動に関すること。</p> <p>(3) 必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練に関すること。特に重大事故等又は大規模損壊の発生時における発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練については、それぞれ毎年1回以上定期に実施すること及び重大事故等対処施設の使用を開始するに当たって必要な教育及び訓練をあらかじめ実施すること。</p> <p>(4) 必要な機能を維持するための活動を行うために必要な電源車、消防自動車、化学消防自動車、泡消火薬剤、消火ホース、照明器具、無線機器、フィルターその他の資機材を備え付けること。</p> <p>(5) その他必要な機能を維持するための活動を行うために必要な体制を整備すること。</p>	<p>—</p> <p>(地震又は火災等発生時の対応)</p> <p>第17条 [略]</p> <p>(1)・(2) [略]</p> <p>2 初期消火活動のための体制の整備として、次の措置を講じる。</p> <p>(1)・(2)・(3) [略]</p> <p>(4) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、第13条に定める巡視により、火災発生の有無を確認する。</p> <p>(5)・(6) [略]</p> <p>3 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、山火事、台風、津波等の影響により、原子炉施設に重大な影響を及ぼす可能性があると判断した場合は、発電部長又は廃止措置部長に報告する。発電部長又は廃止措置部長は、所長、発電用原子炉主任技術者及び各部長に連絡するとともに、必要に応じて原子炉停止等の措置について協議する。</p>	<p>—</p> <p>・変更なし</p> <p>(実用炉規則第92条第1項第16号(設計想定事象等に係る発電用原子炉施設の保全に関する措置に関すること)に対応し保安規定審査基準の要求事項(左記保安規定審査基準欄の1.(1)イ,(3),(4),(5)を参照)を満たすため、第4章(運転管理)の本条に規定する廃棄物管理課長が実施する地震又は火災等発生時の対応は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない)</p>
十八 発電用原子炉施設の施設管理に関すること(使用前事業者検査及び定期事業者検査の実施に関すること並びに経年劣化に係る技術的な評価に関すること及び長期施設管理方針を含む。)	<p><b>実用炉規則第92条第1項第18号</b> 発電用原子炉施設の施設管理</p> <p>1. 施設管理方針、施設管理目標及び施設管理実施計画の策定並びにこれらの評価及び改善について、「原子力事業者等における使用前事業者検査、定期事業者検査、保安のための措置等に係る運用ガイド」(原規規発第1912257号-7(令和元年12月25日原子力規制委員会決定))を参考として定められていること。</p>	<p>—</p> <p>(巡視点検)</p> <p>第13条 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、毎日1回以上、原子炉施設(第93条第1項に定める区域を除く。)を巡視し、発電指令課長は、次の施設及び設備について点検を行う。実施においては、第106条の3第3項に定める観点を含めて行う。以下、本条において同じ。</p> <p>(1) 原子炉冷却系統施設</p> <p>(2) 制御材駆動設備</p> <p>(3) 電源、給排水及び排気施設</p> <p>2 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、原子炉施設(第93条第1項に定める区域)の巡視又は監視を行う。</p>	<p>—</p> <p>・変更なし</p> <p>(実用炉規則第92条第1項第18号(発電用原子炉施設の施設管理)に対応し保安規定審査基準の要求事項(施設管理方針、施設管理目標及び施設管理実施計画の策定並びにこれらの評価及び改善について、「原子力事業者等における使用前事業者検査、定期事業者検査、保安のための措置等に係る運用ガイド」を参考として定められていること)を満たすため、第4章(運転管理)の本条に規定する廃棄物管理課長が毎日1回以上の頻度で実施する巡視点検<sup>*1</sup><sup>*2</sup>は、第5条に定める廃棄物管理課長の職務のうち、廃棄物減容処理装置建屋に設置された共用施設の運転に関する業務であり、今回の浜岡原子力発電所の保安に関する組織の業務分掌の一部見直し対象である廃棄物減容処理装置の施設管理に関する業務ではないため、変更しない)</p> <p>※1：令和元年7月8日に実施した検査制度見直しに関する原子力エネルギー協議会等との面談 (<a href="https://www2.nsr.go.jp/data/000277107.pdf">https://www2.nsr.go.jp/data/000277107.pdf</a>)において、施設管理の巡視(実用炉規則第81条第1項第4号ハ)へ適合する考え方の整理と事業者要望について意見交換し、実用炉規則第81条(発電用原子炉施設の施設管理)の巡視は保修部門等の責任、同規則第87条(発電用原子炉の運転)の巡視は運転部門の責任とし、同規則第87条と保安規定第4章(運転管理)の「巡視点検」が対応していると整理すること (<a href="https://www2.nsr.go.jp/data/000277105.pdf">https://www2.nsr.go.jp/data/000277105.pdf</a>)について合意されている。</p> <p>※2：運転管理業務について包括的に規定した第12条の2(運転管理業務)において、以下のとおり規定している。 「・・・運転管理に関する次の各号を実施する。 (1) 発電指令課長及び<b>廃棄物管理課長</b>は、<u>原子炉施設の運転に関する次の事項を実施する。</u> イ 中央制御室における監視、<u>第13条第1項の巡視点検及び同条第2項の巡視によって、施設の状態管理を実施し</u>、その結果、機器に異状があれば関係課長に通知する。」</p>